

令和4年度宮城県仙台東高等学校学校評価書

※達成度は、学校評価で生徒・保護者の肯定的評価の平均によるものです。【内訳】S:90%以上・A:80～89%・B:70～79%・C:60～69%・D:60%未満
 桃色は県教委指定の共通項目

評価分野	目標(評価)項目	目標達成のための具体的方策(方向性)	達成度 生徒保護者 職員
(1)学習指導	学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業実践	①年2回の校内授業研究月間の実施と、授業力向上支援事業・授業改善研修会・授業構成法講座の活用。 ②生徒による授業理解度評価を適切な時期に実施し、教科会で情報を共有し活用。 ③課題テスト、考査対策週間、成績上位者・下位者への指導、日頃の予習・復習と連動した授業の実施。 ④ICT機器の活用に関する情報提供及び研修会の実施。 ⑤学習習慣の定着指導(朝学習、課題、小テストなど)。 ⑥ワンランクアップゼミによる上位者の成績向上。 ⑦ワンランクアップゼミ等を用いた希望者対象の成績向上。 ⑧部活引退後の受験勉強への切り替え支援(課外講習を中心に)。 ⑨定期的な面談の実施による希望や適性の明確化。	2学年 3学年 B S
効果の検証		【成果の具体的内容】 ●校内授業研究月間については、生徒の実態を把握し、興味・関心を抱かせる授業づくりを取り入れた研究授業が行なわれ、毎年教科でテーマを設け実施することが定着している。今年度も各教科で熱心な取組がなされ、特に英語科では授業力向上支援事業で公開授業を行い、他校の先生方と指導に対する思いを深めることができた。 ●確かな学力を身に付けさせるための指導については、各学年や教科を中心に、課題や小テスト、朝学習、成績上位者や下位者を対象とした学習会や補習などを実施した。 ●ICT機器を活用した授業も数多く行われるようになり、生徒たちもタブレットを利用した新しい授業に慣れ、学習効果が高まったように思われる。 ●3学年ではワンランクアップゼミを6月以降の課外講習に吸収する形で継続した。また、総体後に総合型・学校推薦ガイダンス、保護者対象進路説明会、課外講習参加者集会等を通じて受験勉強への切り替えを図った。2学年では主体的に学習に取り組めるよう読書を含む自学自習の時間とし、ワンランクアップゼミは1年時から継続して実施している。 【今後の課題】 ●今後も確かな学力を身に付けるための指導を継続していく。また、考査対策週間では、生徒の学習に向けた意識向上を図ったが、参加者数が伸びなかったため改善を図りたい。	学校関係者評価
(2)生徒指導	挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立	①遅刻回数による段階的な指導(家庭との密接な連絡、早期個別面談指導)。 ②容儀指導の徹底。 ③部活動・委員会主導による積極的な挨拶運動。 ④継続的な声がけと、教員による共通理解の下の指導。 ⑤生徒主体の活発な部活動を行うための定期的な指導(部長会)。 ⑥学校行事、委員会活動の活性化を図る取組。 ⑦家庭や学校以外の人との接し方を身につける。 ⑧交通安全講習会や継続的な通学マナーアップ指導による交通安全指導。 ⑨全校集会による学校生活全般についての一斉注意喚起。 ⑩挨拶、服装、身だしなみ、自転車マナーの日常的な指導。 ⑪授業や集会などでの時間前行動。 ⑬遅刻、早退が増加傾向の生徒に対する早期個別面談指導。 ⑭挨拶、身だしなみ、自転車マナーの日常的な指導。 ⑮部活動、学校行事、委員会活動の励行。 ⑯登校指導(挨拶、遅刻防止、頭髪・服装指導)。 ⑰部活動、学校行事、委員会活動の励行。	1学年 2学年 3学年 A A
効果の検証		【成果の具体的内容】 ●コロナ禍、遅刻、早退が増加傾向にあるが、生活の乱れによる遅刻回数は把握できており、遅刻回数による段階的な指導は効果を見せている。 ●教職員の共通理解による日常的な指導が成果を見せた。また、生徒間のコミュニケーション、東高への帰属意識を高めることに努めた。 ●遅刻指導、容儀指導などに成果を見せた。遅刻の多い生徒には個別指導も行ってきた。 ●生徒の主体性を向上させ、部活外の行事などにも好影響を与えた。特に、上級学年は学校の中心となって活動していた。 ●生徒主体の活動は積極的で、学校行事では大成功を収めた。 ●部活動、各行事などを生かし、適切な対応ができた。 ●交通安全講習会や継続的な通学マナーアップ指導、新入生オリエンテーションの工夫により交通事故発生件数の大幅な減少が実現できた。 ●コロナ禍、放送による注意喚起が多かったものの、十分機能し成果を見せた。 【今後の課題】 ●交通事故発生件数は大幅に減少したものの、地域の方からの交通マナーに関する苦情は多く、今後も継続的な指導が必要である。 ●服装については、学年進行とともに規定が守られなくなる傾向がみられるので、今後も指導を継続していく必要がある。	学校関係者評価
(3)進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導	①3年間を通した体系的な進路指導(志教育、キャリア教育、各種ガイダンスなど)を適切な時期に行うことによる、生徒の進路目標の達成を目指す。 ②模擬試験の有効活用(事前指導を通した意識付け・結果分析)、課外講習の充実化(1・2年生の課外講習参加者増加、3年生に対する課外講習の時間確保)により、生徒の進路目標達成に必要な学力の向上を図る。 ③総合的な探究の時間などで論理的思考力を育成し探究活動を拡充し、情報収集力情報分析力や課題発見・課題解決力、新たな価値を創造していく力を身につけさせ自己の生き方を考えさせる。 ④学習状況調査や面談を通して生徒の進路意識を把握し、個々の生徒に応じて適切な情報の提供やアドバイスを行う。 ⑤2年時の科目選択を実施するにあたり、系統的な指導を行い、生徒の進路意識の啓発を図る。 ⑥オープンキャンパス、夢ナビライブ(web)に参加させることで、大学で学ぶ内容を明確にするとともに、様々な職業分野に関する講義を聴くことで将来に向け職業意識を高める。 ⑦オープンキャンパス、夢ナビライブへの参加、地域貢献プログラムの実施。 ⑧二者面談、三者面談の実施による生徒個々の進路目標把握と適切なアドバイス。 ⑨志望進路先となるオープンキャンパス、大学等説明会への参加と関心分野に対する問題意識の醸成。 ⑩総合型選抜入試対策のための志望理由書作成指導、面接指導。 ⑪進路シラバス、各種進路ガイダンスの有効活用。	2学年 3学年 1学年 A S
効果の検証		【成果の具体的内容】 ●進路資料や各種ガイダンスなどをさらに充実させ、時期に応じて生徒の意欲を喚起させるような指導を実施・検討してきた。今年度は、新たに6月に大学の担当者による生徒向けの入試説明会の実施、3月の特編授業期間に1、2年生の進学ガイダンス、卒業生の話を聞く会を計画することができた。 ●模擬試験の事前・事後指導はかなり定着してきたと思われる。3年生の課外講習は共通テスト対策だけではなく二次対策も定着してきた。 ●総合的な探究の時間については、各学年の核となる探究活動を中心に内容の充実を図りながら実施・検討してきたが、更なる内容の精選・充実が必要である。 ●面談や模擬試験の結果の配付の際にベネッセのコンパスを利用した具体的な指導も定着してきている。生徒のハイスクールオンライン個人登録も増加しているため更なる活用を促していきたい。総合型選抜の指導教員割り当てについては夏期休業前に行い、夏期休業期間に指導できるようにした。 ●生徒は主体的に希望する学校のオープンキャンパスや夢ナビに参加し進路意識を更に高めた。 ●志望理由書作成、面接指導を全教員に振り分け、できるだけ手厚く指導した。 【今後の課題】 ●2年生の課外参加者が少ないため、内容の再検討、学年集会等での意識付けを行いたい。 ●3月の1、2年生スタディサポートを、特に夏期課外講習と関連付けて意識付けを行い、学力の向上を図っていきたい。 ●各学年の教員対象模試分析会を計画的に実施したい。 ●総合的な探究の時間については、3年間の体系的な指導計画について、進路指導部としてこれまでの内容を整理し、総探委員会に見直しを提案していきたい。 ●R7度に向けた入試制度関係について、校内研修の実施を検討したい。 ●2年生の地域貢献プログラムで、理系の生徒に関連分野の選定やインタビューが難しい生徒が出ていたため、3年生ではより希望進路に合った探究活動となるよう配慮したい。	学校関係者評価
(4)教育相談	必要な時に随時相談に応じる体制	①カウンセリング利用が定着しつつあるが、「HP」等を通じ、更なる利用を呼びかける。 ②カウンセリング委員会・教育相談委員会の連携を図り、更に様々な相談に対応できるように各学年に担当者を配置しスムーズに「ケース会議」等を開催する体制を整える。 ③保健便り、PTA総会資料等を通じ、教育相談について、保護者への周知徹底を図る。 ④保健便り、eメッセージを活用し、カウンセリングについての理解を深める。	保健厚生部 全学年 A A
効果の検証		【成果の具体的内容】 ●カウンセリングについては、生徒への理解も進み、毎回の予約があり利用が定着してきた。また、各委員会との連携でケース会議を開催し、生徒への支援に繋がった。 ●生徒には講話、教員には研修会を実施し、ストレスや精神衛生上の問題への理解を促した。 【今後の課題】 ●生徒がストレスに自ら気づき、生活習慣・学習習慣の改善点を認識できるように研修の機会を確保したい。 ●特別支援を必要とする生徒もおり、さらなる支援体制・外部機関との連携などを進めていくべきである。	学校関係者評価

令和4年度宮城県仙台東高等学校学校評価書

※達成度は、学校評価で生徒・保護者の肯定的評価の平均によるものです。【内訳】S:90%以上・A:80～89%・B:70～79%・C:60～69%・D:60%未満
 桃色は県教委指定の共通項目

評価分野	目標(評価)項目	目標達成のための具体的方策(方向性)	達成度	
(5)部活動	部活動に対する活発な取組	①新入生の部活動全員加入と生徒会執行部のバックアップ体制の強化。 ②部長会主導による規律ある活動の徹底。 ③部活動施設・設備等の調査及び整備充実のサポート。	④部活動の積極的参加を呼びかける。 1・2学年 ⑤各種大会結果等について保護者へPTA会報やHPを通して通知する取組。 生徒指導部 ⑥部活動を最後までやり抜く指導。 3学年	生徒保護者 職員 A A
		効果の検証 【成果の具体的内容】 ●①と④について、生徒会企画の部活動紹介の工夫や十分な部活動体験期間を設定するなど十分な対応ができた。また、部活動での容儀指導、通学マナー向上などにも成果を見せた。 ●施設設備等については、事務部と協力のもと十分なサポートができた。 ●大会結果等については、生徒会誌「東風」への掲載することとした。また、総体についてはPTA会報や東高だよりにも掲載した。 ●3年生には、総体、高校野球選手権予選、マーチングの全国大会まで活躍する生徒が大勢いて、部活をやり切ることができた生徒が多かった。 ●1年生も多くが参加し、2年生では、部活動に取り組んでいる生徒は、3年生引退後に中心学年としての責任を自覚し部活動を牽引するなど大きな成長が見られる。 【今後の課題】 ●ここ数年、2年生に進級するとともに部活を退部する生徒が増加傾向である。		
(6)生徒会活動	生徒会活動に対する活発な取組	①生徒の主體的な活動における生徒会執行部の活動活性化。 ②生徒会、委員会活動を通してリーダーの育成を図る。	生徒指導部	A A
		効果の検証 【成果の具体的内容】 ●各行事では、コロナ禍にありながら、生徒会、各委員会が主体となり、創意工夫のもと大成功を収めた。 【今後の課題】 ●生徒会執行部の部員確保につとめたい。また、行事を運営する点からも生徒会を含めたリーダーの育成を進める必要がある。	学校関係者評価 生徒会活動と学校行事は結びつくところが大きく、より充実した活動が進められていることが評価の数字からも見受けられます。ぜひ、今後も引き続き活躍されることを願っております。	
(7)学校行事	有意義な学校行事の取組	①外務省からの情報をこまめに確認し、安全で安心な海外研修プログラムの実施する。 国際部 ②生徒会、委員会の活性化によるリーダーの育成。 生徒指導部 ③クラスでの役割を果たしながら、行事に積極的に取り組むことで、東高生としての誇りを持てるようにする。 1・2学年 ④行事の目的を理解させ一体感を体験することで活気ある生活をつくり、進路目標達成の原動力とする。 3学年	国際部 生徒指導部 1・2学年 3学年	A S
		効果の検証 【成果の具体的内容】 ●新型コロナウイルス感染症や国際情勢の影響により今年度も渡航が叶わず、本校の目玉行事の実施ができなかったが、諦めることなくオンライン交流等で工夫しながら海外と繋がる状況を作り、国際教育の理念の継承が途絶えないようにしてきた。 ●②において、各行事では生徒会、各委員会がリーダーシップを発揮し、創意工夫のもと大成功を収めた。 ●3年生は運動会、文化祭、球技大会で学校の中心となり行事を運営し、1、2年生の手本となるとともに、生徒全体で達成感を感じたものとなった。 【今後の課題】 ●外務省の情報、渡航計画先の関係機関の受け入れ情報を欠かさず入手し、再び海外研修の実現に向けて取り組んでいきたいと考える。 ●コロナ終息後の新たな学校行事計画に向けた創意工夫を検討していきたい。行事の一般公開を経験していないことで、通常開催の場合の運営に苦慮することも予想される。	学校関係者評価 コロナ禍にありながら、状況に応じた行事の工夫は大変良かったと考えます。今後も生徒への貴重な体験や達成感を味わう活動を通して、生徒自身の前向きな成長につながる手立てとなることを期待しております。	
(8)特色ある学校	地域や伝統、目指す学校像などに基づいた特色ある学校づくり	①1学年で、SDGsをより深く追求した指導・理解を図る総合的な探求の時間。 ②世界情勢を踏まえたグローバルワークの内容精選と異文化理解の態度の育成。 国際部 ③英語科講演会、英語科合宿の充実。 英語科 ④スピーチ・英作文等の各種コンテストの奨励。	国際部 英語科	A S
		効果の検証 【成果の具体的内容】 ●昨年度よりも国際分野の時間が増加し、探究活動の発表においても昨年よりやや説得力のある作品を完成することができた。河北新報社、朝日新聞社の取材も受け、朝刊で紹介された。 ●昨今の世界情勢において、最もタイムリーな方々をお迎えして講演・講話を頂くことができた。 ●英語科講演会・英語科合宿・各種コンテストへの参加等、着実に実施することができた。 【今後の課題】 ●次年度はさらに時間数も増え、業者によるコーディネイトが行われる計画となるかもしれないので、より深い探究ができると考えられる。 ●グローバルワーク等では今後もタイムリーな方々をお迎えすると共に、生徒が満足できるような内容を考えていきたい。	学校関係者評価 「東高だより」を見直し、大変充実したグローバルワークであったことを知りました。「今後の課題」にもありますが是非取り組みを継続していただければと思います。可能であれば、貴重な機会ですので、地域やPTAの方の参加についても検討いただくとよいと思います。また、英語科独自の活動に関するさらなる情報発信にも、力を注いでいきたいです。	
(9)防災教育	災害・非常時の避難方法や連絡方法の徹底	①生徒の防災意識向上につながる防災訓練の実施と防災マニュアルの精査を行う。 ②eメッセージの登録率の向上と、運用方法の改善を図る。 ③各種訓練や研修会を行い、命を守ることの大切さを徹底する。 総務部 ④危機管理マニュアルの周知徹底により危機の未然防止に取り組む。 ⑤各種防災訓練に取り組みさせることで、命の大切さの指導を徹底する。 全学年	総務部 全学年	A S
		効果の検証 【成果の具体的内容】 ●5月下旬と10月中旬に、避難訓練を実施し、具体的な避難方法について体験する機会をもった。地震、火災と具体的な想定のもとで、生徒の意識向上につながるようにつとめた。 ●8月に教職員対象の防災研修を実施した。 【今後の課題】 ●eメッセージについては、学年進行にともない登録率が低下する傾向があり、様々な機会に働きかけを行う等の対策が必要である。 ●想定外の災害におそわれることもあると思われるので、さらなる防災意識の向上を図りたい。	学校関係者評価 仙台東高校の立地を考えたとき、地震や津波等の避難訓練が実践的であることの重要性を感じます。eメッセージによる情報発信の有効性を検証しながら、これからも、平常時、緊急時問わず、学校からの正確で迅速な情報発信と防災教育の実践に努めていただきたいと考えます。	
(10)開かれた学校	学校情報の適切な発信	①学校ホームページの充実。 ②PTA会報「しおかぜ」の紙面の充実。 総務部 ③仙台東高校カレンダーの充実。 ④eメッセージの適切な利用による情報発信。 ⑤地域の小学校や市民センターと部活動・英語科活動との連携を行う。 英語科 ⑥オープンキャンパス時の英語科紹介PR等の充実を図る。 全学年 ⑦学年便りを定期的に発行し、保護者への情報発信に努める。	総務部 英語科 全学年	A A
		効果の検証 【成果の具体的内容】 ●プリントによる連絡と同時に、eメッセージも発信して周知を高めるようにした。 ●PTA会報については、引き続き保護者の意見を取り入れ、よりよい紙面作りを心がけた。 ●近隣地域の市民センター・児童館が開催する9つの事業に参加し、演奏披露やボランティア活動、英語を使った季節行事などを実施した。 ●定期的な学年便りを紙媒体の印刷で発行(年に3回)し、学年の様子等をお知らせした。 【今後の課題】 ●今後も生徒・保護者に適切な形で情報が伝達できるよう、eメッセージの活用も含めた改善を重ねたい。 ●コロナ禍の状況を考慮しながら再開される地域事業への参加依頼について、学校としてできることを前向きに検討していきたい。	学校関係者評価 学校ホームページや書面(東高だより、学年だより、PTA会報等)によるでき得る様々な発信の工夫を感じます。ホームページでは校長の声が届くのが見られるのが良いです。また、地域へのボランティアや依頼行事への参加が今年度は再開と同時に増えたとのこと。今後も地域との連携を大切にしていきたいと考えます。	

令和4年度宮城県仙台東高等学校学校評価書

※達成度は、学校評価で生徒・保護者の肯定的評価の平均によるものです。【内訳】S:90%以上・A:80～89%・B:70～79%・C:60～69%・D:60%未満桃色は県教委指定の共通項目

評価分野	目標(評価)項目	目標達成のための具体的方策(方向性)		達成度	
(11)PTA活動	PTA活動に対する学校と保護者との連携	①PTA諸行事を通じて、PTA役員を含めた保護者と学校の協力体制をより強化していく。	総務部	S S	
		②PTA会報、ホームページ、eメッセージによる情報発信を、適時行う。			
		③学校・保護者が協力して街頭指導を行うことで、生徒通学時の安全意識の向上を図る。			
	効果の検証	<p>【成果の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感染状況などの情勢をふまえながら、総会の対面での開催など、行事のあり方を工夫しながら活動を進めた。まだまだ制約を受ける部分もあるが、より良い方向で活動していきたい。 ●適正な予算の執行についても、事務部でしっかりと管理し、慎重かつ確実に進めることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●街頭指導など、保護者の参加をえて実施することもできるようになってきたが、諸行事の継承とともに、現在にあわせた改善を重ねていきたい。 		学校関係者評価	今年度はPTAと連携した通学指導も行ったということを知っています。引き続きコロナ収束後を見据えた充実した活動を期待しております。また、適正な予算執行についても、保護者目線での適用を考えて工夫していると感じました。
(12)施設設備	施設・設備の整備に対する取組	①定期的に校舎内外の点検を行い、危険箇所及び破損箇所の早期発見に努めるとともに、速やかに安全対策等を講じ、事故防止に努める。	事務部	B S	
		②大規模修繕等については、生徒・保護者・教職員の要望を検証し、教育庁施設整備課との調整により、計画的に推進する。			
	効果の検証	<p>【成果の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校舎内外の定期的な点検を実施し、危険箇所及び破損箇所の修繕を実施してきた。特に、地震による破損箇所の修繕や、トイレの改修工事の様な大きな事業も計画通りに進めることができた。多くの細かい部分も含め目に付かないところもあったかもしれないが、着実な点検・整備を重ねてきた。 ●安全対策については、7月に消防署による防火点検も実施され、大きな問題は指摘されなかった。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設の修繕には予算も関わるが、修繕が必要な場所については今後も対応し、安全対策と事故防止等に努めたい。 ●大規模修繕等については、引き続き各機関と調整を図っていききたい。 		学校関係者評価	施設設備の修繕を求められても、修繕が終わると当然のように感じられてしまうため、評価に開きがあるのだと思いますが、地震で生じた破損箇所の修繕も、トイレの改修工事等、多くで改修・点検が実施されており、きちんとした状態が保たれていると思います。今後も、安全対策、事故防止につなげていただきたいと思います。
(13)いじめ問題	いじめに関する問題の早期発見と取組方針の保護者との共有	①定期的な「いじめアンケート」の実施と追跡調査。	生徒指導部	B S	
		②全ての教員による「あらゆる場面」での観察と日頃からの声かけ指導。			
		③いじめは絶対に許さないという毅然とした指導をさまざまな場面で取り組む。			
		④分掌内や各学年との恒常的な連携と対応。			
		⑤教育相談委員会の取組の徹底。			
		⑥スクールカウンセラーの積極的な活用促進。			
		⑦「学校いじめ防止基本方針」の共通認識を図り、全職員でいじめ防止に取り組む意識の徹底を図る。			
		⑧情報モラル教育をLHR等を活用して行う。			
	効果の検証	<p>【成果の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●①②④⑦⑩にかかわる定期的なアンケート(記名式)の実施により、トラブルに対して迅速な対応ができた。また、トラブル解決後も、生徒部、学年、保護者と連絡を密に生徒の言動を注視し、トラブル再発防止に努めた。 ●情報モラルについて、不適切なスマホの使用からトラブルに発展するケースが多く、LHRの時間を活用し生徒のモラル意識向上を図った。また、18歳成人となり、社会人としての有り様についても指導を行ってきた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定期的なアンケート、二者面談、三者面談の充実、さらに日常的な観察による教職間の情報共有により、いじめ未然防止に努めたい。 ●SNSや日常の会話の中で不意な発言や発言がないよう今後も声かけしていく必要がある。 		学校関係者評価	いじめアンケートが紙面で行われていることで、記入時の工夫で効果的な指導につながっているのは良いことだと思います。紹介になりますが、大学などでは同じように記入する時間帯の工夫に加え、オンラインでの実施なども行っており、もしかしたら有効かとも思いますので今後の検討材料にしていたければ幸いです。
(14)保健指導	自主的に健康管理ができる指導	①全ての生活の基盤は、心身の健康保持・増進にあることを自覚させ、規則正しい食生活と十分な睡眠の確保を呼びかける。	保健厚生部	A A	
		②担任、保護者と連携をはかりながら、保健便り、クラスの健康観察を通して、自主的に健康管理や正しい行動選択の実践ができるよう啓発する。			
		③基本的な生活習慣の定着指導。			
	効果の検証	<p>【成果の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保健室来室生徒の様子から、睡眠不足や部活動・学習の疲労を感じている生徒が多い状況が見受けられた。 ●保健だよりを活用し、規則正しい生活習慣や適切な休養の確保などについて情報を発信した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の健康問題に気づきにくい傾向がある。問題解決に何が必要か、どんな対処法があるかを一緒に考えながら指導している。 ●今後も保健厚生部と学年・担任が保護者とも連携し、継続的な指導や支援を実施する必要がある。 ●保健室を利用する生徒が増え、養護教諭やスクールカウンセラーなどと綿密な情報交換や相談が必要である。 		学校関係者評価	まだ充分ではありませんが、トイレ清掃状況が良くなりました。とても良いことだと思います。また、日頃の感染対策予防や健康管理の状態を丁寧に情報を発信したり、個別に対応したりしていることが、生徒自身の成長への支援となっていることが示されている評価だと思います。引き続き各館関係との連携を深めていただきたいと思います。
(15)読書指導	生徒の読書活動をサポートする取組	①年4回「朝読書」期間を設定し、読書に取り組むきっかけをつくり主体的に読書に取り組める生徒を増やす。	教務部 図書班	A A	
		②新入生対象の「図書室利用オリエンテーション」を実施し、活用案内を配付することにより、図書室が身近なものとなるようにする。			
		③「年間多読賞」を継続し、読書への興味・関心を高める。			
		④大学の小論文に参考となるような新書などを紹介するなど、進路目標達成につながるような読書を促す。			
		⑤eライブラリーによる各クラスへの書籍配置を実施、読書活動を推進する。			
	効果の検証	<p>【成果の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書館の蔵書は、要望に応じて、英語多読教材や総合的な学習における小論文に関する参考資料を整備してきた。 ●eライブラリーによる各クラスへの書籍配置を実施し、読書に取り組むきっかけ作りを行った。 ●1・2年生ではLHRで年2時間のビブリオバトルを学年で設定し、実施した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●朝読書については、通常の登校時刻よりも5分早めて実施してきたが、全員揃って取り組むことが難しかった。来年度は、LHRの時間を利用した読書会などを各クラスで設けることで、主体的に読書に取り組める生徒を増やしたいと考えている。 		学校関係者評価	年間多読賞の表彰制度がとても良いと思います。活字に触れながら、自身の感性を高めていくことは大変重要なことです。ぜひ今後も読書習慣を促していく活動を継続していただきたいと思います。
(16)総合満足度	充実した学校生活のための取組	①入学式・卒業式などの学校行事が、生徒・保護者にとってかけがえのない行事となるよう計画・準備を行う。	総務部	A A	
		②「学校防災計画」に示した緊急時対応の検証を常に行う。			
		③個人面談の充実により、目的意識を涵養し、充実した高校生活となるよう支援する。	1・2学年		
	効果の検証	<p>【成果の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入学式や卒業式も、コロナ禍を起因とする社会情勢の影響を受けている。中でも、可能な限りでより良いものとなるよう工夫を重ねた。 ●基本的な生活習慣を正し、学校教育を総合的に俯瞰しながら学習につなげる指導を行ってきた。 ●各学年では適時適切に個人面談を実施、学校生活を支援に努めてきた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校防災計画等の緊急時対応については、状況は、刻々、変化しており、その折々の情勢を踏まえて、生徒・保護者の納得の得られるような改善を検討していききたい。 ●人間関係や学習面、進路選択等に悩みを抱える生徒へは個別の対応を今後も続けていく必要がある。 		学校関係者評価	どの項目においても概ね高評価で良い学校だと思います。今後もこのような評価が続くよう期待しております。また、学校評価とは別に自由記述での要望について検討した内容が含まれていることは良いことだと思いますので、ぜひ次年度へつなげてほしいと思います。
		④文武両道の推奨。			
		⑤学校行事などへの積極的な取組を指導する。			
		⑥学習を生活の活力に、生活を学習の活力にするための健全な高校生活の支援(個人面談や対応等)。	3学年		